

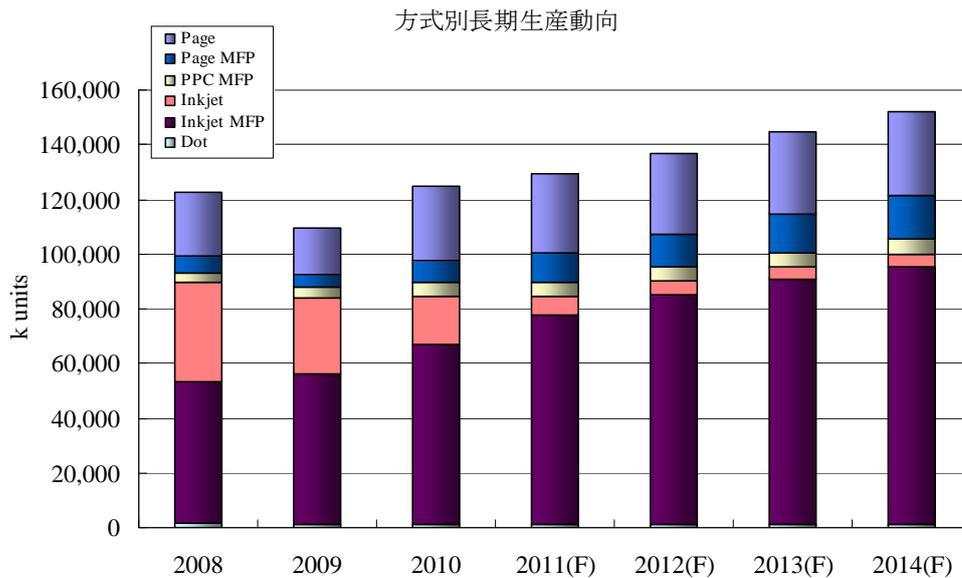
TSR - Press Release

2011年の世界プリンター・MFPの生産台数は1億2,924万台になる見通し ～ 東日本大震災、タイの洪水の影響で対前年比3.7%増に留まる。2012年以降も予断を許さない市場状況～

株式会社 テクノ・システム・リサーチは、2011年11月にプリンター・MFPに関する季刊調査報告書『季刊 プリンター・MFP生産統計情報』の2011年第3四半期号(7～9月)を発売しました。

2011年は対前年比3.7%増の129,248.9k台となる見込みである。第2四半期(4～6月)時点の予測では2011年の見通しを対前年比5.6%増としたが、タイの洪水被害によって工場の停止や部品調達の問題が発生し、セットの供給能力が低下したこと、2011年の後半に入って欧米経済の先行きの不透明感が強まり、需要面での縮小が見込まれることから、2011年の見通しを下方修正した。

2012年においても、欧州における財政・金融問題、米国の景気動向など予断を許さない状況が続くが、今後大きな世界経済の変化がない限り、新興国の需要拡大のため、プリンター・MFP市場は継続的に拡大する見込みである。



2011年第3四半期(7～9月)におけるプリンター・MFPのトータル生産台数は前年同期比4.8%減の33,480.6k台となった。昨年同期よりも生産台数が減少したのは、インクジェットプリンター/MFPの影響で、昨年は生産のピークが9月であったが、今年は後ろ倒しになっており、生産のピークが10月以降になっていることによる。

2011年第2四半期(4～6月)は東日本大震災の影響で停滞した第1四半期(1～3月)からの回復が見られた。しかし第3四半期に入り、タイの洪水による生産能力の減少、欧米市場の停滞により、2011年の下期の動向には不透明感が漂う。10月に発生したタイの洪水より、Canon、Oki Dataのタイ工場が浸水し、直接的な被害を受けたほか、RicohやEpsonは部品調達先が浸水し、生産に影響が出ると指摘している。被害を受けたメーカーは他の工場への代替生産で生産能力を確保するが、浸水したタイ工場が再び稼働するのは1月からの見込みであり、12月の年末商戦への影響が懸念される。



【本リリースについて】

本リリースは季刊調査報告書『季刊 プリンター・MFP 生産統計情報』の2011年第3四半期号(7～9月)の概要です。同資料では、各プリンター・MFPメーカーの生産台数を四半期毎に統計をとっています。製品タイプ別(Page、Page MFP、PPC MFP、Inkjet、Inkjet MFP)、工場別(EMSも含む)、メーカー別、カラー/モノクロ別、印字速度別などの市場を調査したレポートとなっております。

【リリース及び資料のお問い合わせ先】

株式会社 テクノ・システム・リサーチ
第2グループ 坂本 正人 (sakamoto@t-s-r.co.jp)
Tel: 03-3866-4505